

# 2015 年度（平成 27 年度） 事業計画

## 【 目 次 】

トップメッセージ	2
2015 年度（平成 27 年度）事業計画	
1. 基本方針	3
2. 重要施策	3
3. 事業計画の全体像	4
4. 各施策	
I. 教育	5
II. 研究	7
III. 社会貢献	7
IV. 国際化	8
V. 学園運営	9

## [ 参 考 ]

- ◇ VISION150 第 1 期中期計画「コンパス 2017」について・・・10

## トップメッセージ

### 新たな取り組みをスタートさせ 魅力ある、選ばれる学園を目指します。



理事長 高田 貢

学校法人工学院大学のルーツである工手学校が明治 20 年（1887 年）に開校されて以来、時代と共に大きく変化する明治、大正、昭和、平成の変遷を経て、学園は現在、大学、大学院、附属中学・高等学校など、約 7,600 名の学生・生徒が学ぶ学園となっております。その間、幾多の困難や災厄に遭遇しておりますが、その都度先達の叡智と努力により乗り越え発展してきました。

しかしながら 21 世紀に入り、我が国の社会構造が大きく変化し、とりわけ少子高齢化の進行などによる学校間の受験者獲得競争が激化するなど、私立学校経営は従来に比べて格段に難しい優勝劣敗時代を迎えております。このような時代であるからこそ、我々が進めている中期計画「コンパス 2017」に掲げた「改革」を遅滞なく進め、「VISION150」の実現を図らねばなりません。

2015 年度（平成 27 年度）事業計画では、教育改革・ガバナンス改革・業務の合理化を重点施策と位置づけ、21 世紀型教育改革をスタートさせ、既存学部の再編などを積極的に進めることにより、魅力的な教育システムを確立します。その先進工学部の開設および情報学部の再編をはじめとして、教育の充実を図るとともに、八王子キャンパスの既存校舎（4 号館）の建てかえを実施し施設の充実を図ります。また、学生の自主活動やラーニング commons の場が提供できる先進的な新図書館も本年度中に着工する予定です。

一方、附属中学・高等学校では今期から附属中学校で新コース（ハイブリッドインター、ハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数）を開設し、新入学生を迎え授業を開始しました。この教育システムは、ICT を駆使し学ぶ双方向授業（PIL、PBL）が基本となり、一部の教科では、英語による授業を取り入れるなど、国が目指している中等教育改革を先取りした取り組みがスタートしました。

次に、ガバナンス改革では、国の法令改正に伴う本学の学則の一部改正を学園のガバナンス体制を見直す好機ととらえ、内部諸規則の見直しを図り学園の将来を見据えた体制づくりを進めます。なかでも職員の人事制度改革に引き続き、今期は教員人事制度改革にも積極的に取り組んでいかねばなりません。

また、業務の合理化については、ICT を積極的に駆使し、合理的な事務管理体制を構築するとともに、業務の簡素化と迅速な対応を可能にすることが肝要です。さらに、学園の教職員・学生生徒など、全員参加による 3S 運動やリスク管理を強力に推進します。

これらを通して、魅力ある学園としてステークホルダーから選ばれ評価される学園改革を進めてまいります。

# 2015 年度（平成 27 年度）事業計画

---

## 1. 基本方針

◆教育改革 ◆ガバナンス改革 ◆業務の合理化

## 2. 重点施策

### (1) 「教育改革」に関する重点施策

- ・先進工学部の開設
- ・情報学部改組の準備
- ・附属中学校新コースの開設と「21 世紀型教育」の実施
- ・新 2 号館、新 4 号館の建設

### (2) 「ガバナンス改革」に関する重点施策

- ・新教員人事制度の制定
- ・新職員人事制度の実施
- ・学園のガバナンスの見直し開始

### (3) 「業務の合理化」に関する重点施策

- ・学園資産の有効活用
- ・3S 運動（整理・整頓・清潔）の推進
- ・学園のリスク管理の推進

### 3. 事業計画の全体像

- ◆大学
  1. 社会のニーズに応じた学部等の再編
  2. 大学院の強化
  3. 組織的・体系的教育の実施
  4. 学生支援・キャリア支援・就職支援の充実
  5. 教育システムのグローバル化
- ◆大学・附属中高連携
  1. 中高大院一貫教育体制の構築
- ◆附属中高
  1. 「21世紀型教育」の実現
  2. 教員の教育力向上
  3. 生徒の学力向上と学習環境の整備
- ◆学園全体
  1. よりよい学習環境に向けた施設・設備の整備
  2. IRと連動した情報公表体制の確立

#### 数値目標

- ◆大学
  - (1) 偏差値 1ポイント以上の上昇
  - (2) 志願者数 19,000名
  - (3) 1年次 35単位以上修得者の割合 85%以上
  - (4) 就職率 90%以上
  - (5) 大学院（他大学院含む）進学率 30%以上
- ◆附属中高
  - (1) ハイブリッドクラスの志願者数  
600名アクセス→60%出願 360名→受験生 300名  
→合格者 200名→入学者 105名
  - (2) 高等学校の志願者数 1,000名以上
  - (3) 中学校・高等学校の偏差値 1ポイント上昇
  - (4) 工学院大学内部進学者数 80名以上
  - (5) 国公立大学合格者数 10名以上  
難関私立大学合格者数 10名以上  
GMARCH合格者数 30名以上

1. 社会貢献事業の  
継続的展開

社会  
貢献

1. 先鋭的な  
研究体制の確立

研究

◆教育改革  
◆ガバナンス改革  
◆業務の合理化

#### 数値目標

- ◆大学
  - (1) ハイブリッド留学の参加者 50名
  - (2) 協定校からの受け入れ 25名
- ◆学園全体
  - (1) 外国人研究員の雇用 2名
  - (2) 職員のTOEIC受験率 20%以上  
TOEIC750点以上の職員 10名

国際化

#### 数値目標

- (1) 外部研究資金：  
研費申請率 70%以上、  
競争的資金獲得 15件以上
- (2) 審査付論文の採択件数 250件以上
- (3) 研究成果のメディア掲載件数 250件  
研究成果のメディア掲載人数 20名
- (4) 大学院生の学会発表 500件以上  
大学院生の受賞数 50件以上

学園  
運営

- ◆大学
  1. 学生の国際化の推進
- ◆附属中高
  1. 国際交流の推進
- ◆学園全体
  1. 中長期的な国際化の展開
  2. 教職員の国際化の推進

1. 教職員の人事政策の確立
2. 財務体質の強化
3. 学園運営の基本的見直し
4. 業務改革の推進

## 4. 各施策

### < I. 教育 >

#### ◆大学

[数値目標]

- (1) 2016年度入試 全学科の偏差値 1ポイント以上の上昇  
(2014年度から2018年度までで5ポイント上昇/2018年度入試全学科偏差値<sup>1</sup> 50以上)
- (2) 2016年度入試 志願者数 19,000名(編入学除く)
- (3) 2015年度入学生 1年次 35単位以上修得者の割合 85%以上
- (4) 2015年度卒業生 就職率<sup>2</sup> 90%以上
- (5) 2015年度卒業生 大学院(他大学院含む)進学率<sup>3</sup> 30%以上

#### 1. 社会のニーズに応じた学部等の再編

- 1.1 先進工学部の円滑な運営
- 1.2 情報学部改組の実施

#### 2. 大学院の強化

- 2.1 大学院教育改革の方針の決定
- 2.2 カリキュラム改革の実施

#### 3. 組織的・体系的教育の実施(教育改革)

- 3.1 学生が身に付けるべき能力を重視した授業科目体系の再構成と授業方法の改善
- 3.2 教育の質保証システムの構築(全学的システムおよび学部・学科によるシステムの構築)
- 3.3 新宿・八王子の有機的な結合(授業時間の調整や遠隔授業の導入の検討など)

#### 4. 学生支援・キャリア支援・就職支援の充実

- 4.1 課外活動の質的充実に向けたリーダー育成と相互連携ならびに活動状況の可視化
- 4.2 就職支援戦略に基づいた施策の実施
- 4.3 学生視点に立った教職員の対応力強化

#### 5. 教育システムのグローバル化

- 5.1 クォーター制度の拡大とGPAの導入
- 5.2 英語での基礎教育授業の実施に向けた計画の策定

<sup>1</sup> 河合塾A日程による

<sup>2</sup> 就職率= 内定者数/(卒業・修了者数-大学院進学者数) ※大学通信方式

<sup>3</sup> 進学率= 大学院進学者数/学部卒業生数

## ◆大学・附属中高連携

### 1. 中高大院一貫教育体制の構築

1.1 2015 年新クラス（コース）の生徒を対象とした「飛び級制度」

（建築学部・・・高校 2 年間→大学 3 年間→大学院 2 年間）

1.2 高大接続の実施計画の策定

## ◆附属中高

[数値目標]

- (1) 2016 年度入試 ハイブリッド（インター・特進・特進理数）クラスの志願者数  
600 名アクセス→60%出願 360 名→受験生 300 名→合格者 200 名→入学者 105 名
- (2) 2016 年度入試 高等学校の志願者数 1,000 名以上
- (3) 2016 年度入試 中学校・高等学校の偏差値 1 ポイント上昇
- (4) 2015 年度卒業生 工学院大学内部進学者数 80 名以上
- (5) 2015 年度卒業生
  - 国公立大学合格者数 10 名以上
  - 難関私立大学(早稲田、慶応、上智、東京理科、ICU)合格者数 10 名以上
  - GMARCH 合格者数 30 名以上

### 1. 「21 世紀型教育」の実現（教育改革）

- ・アクティブラーニングの実践→授業・PIL・PBL・ICT→教科指導(授業チェック)
- ・英語科研修
- ・教員の IB ワークショップ参加

1.1 PBL・PIL 型授業の展開

1.2 中学校新コース

1.3 高校のコース改編の検討

### 2. 教員の教育力向上

2.1 教務の質的向上

2.2 教育評価制度の確立（2016 年度の実施を目指す）

### 3. 生徒の学力向上と学習環境の整備

3.1 学力の向上と学習環境の整備

（校舎内の ICT 環境整備：中学棟・図書館・理科実験室、電子黒板：高校 2・3 年 HR）

3.2 科学的論理思考を育成する教育の推進

（ハイブリッド特進理数クラスでモデルケースを創る）

## ◆学園全体

1. よりよい学習環境に向けた施設・設備の整備（八王子キャンパスの価値・魅力の向上）
  - 1.1 新4号館の竣工と新2号館の建設に向けた着実な計画の遂行
2. IRと連動した情報公表体制の確立
  - 2.1 IRの導入による教育評価の実施
  - 2.2 職員のデータ分析・活用能力の向上

## <Ⅱ. 研究>

### [数値目標]

- (1) 外部研究資金：  
2016年度科研費申請率<sup>4</sup> 70%以上、2015年度競争的資金獲得 15件以上
- (2) 審査付論文の採択件数<sup>5</sup> 250件以上
- (3) 研究成果のメディア掲載件数 250件 / 研究成果のメディア掲載人数 20名
- (4) 大学院生の学会発表 500件以上 / 大学院生の受賞数<sup>6</sup> 50件以上

1. 先鋭的な研究体制の確立
  - 1.1 プロジェクト研究の充実、重点研究分野の設定
  - 1.2 研究成果の発信力強化
  - 1.3 研究の教育への還元

## <Ⅲ. 社会貢献>

1. 社会貢献事業の継続的展開
  - 1.1 科学教育センター運営規模の適正化
  - 1.2 中・高大院連携における協定校との連携強化
  - 1.3 八王子市・新宿区等地域との連携強化

<sup>4</sup> 科研費申請対象者に対する割合

<sup>5</sup> 参考：『研究活動報告書』総合研究所発行

<sup>6</sup> 参考：学生支援課への「受賞の届け」提出数

## <Ⅳ. 国際化>

### ◆大学

[数値目標]

- (1) ハイブリッド留学の参加者 50名
- (2) 交換留学における協定校からのプログラム受け入れ 25名

#### 1. 学生の国際化の推進

- 1.1 ハイブリッド留学の拡大
- 1.2 留学生受け入れ体制の強化

### ◆附属中高

#### 1. 国際交流の推進

- 1.1 留学生・帰国子女の受け入れの拡大
- 1.2 ホームステイによる国際交流の強化と高校生のホームステイの拡大
- 1.3 海外留学の計画と実施および異文化体験

・ハイブリッド3クラスのためのリサーチを2014年度開始

(アメリカ・シンガポール・イタリア)

→留学(在学中の短中期、海外大学進学):北米・オセアニア・ヨーロッパ

→異文化体験:北米・オセアニア・南アジア・ヨーロッパ

### ◆学園全体

[数値目標]

- (1) 外国人研究員の雇用 2名
- (2) 職員のTOEIC受験率 20%以上 / TOEIC750点以上の職員 10名

#### 1. 中長期的な国際化の展開

- 1.1 中期的な学園のグローバル化戦略の策定

#### 2. 教職員の国際化の推進

- 2.1 教職員国際化に向けた方針の策定
- 2.2 SDとしての職員の英語力向上



## < V. 学園運営 >

### ◆学園全体

1. 教職員の人事政策の確立
  - 1.1 教員人事制度改革の実施
  - 1.2 職員人事制度の円滑な運用
  - 1.3 研修体系の確立とそれに基づく教職員研修の実施
  - 1.4 中長期的な教職員の人員計画の策定
  
2. 財務体質の強化
  - 2.1 各部門の予算管理責任の明確化
  
3. 学園運営の基本的見直し（ガバナンス強化等）
  - 3.1 法改正等に伴うガバナンス体制の見直し
  - 3.2 意思決定プロセスの簡素化（役割と責任と権限の明確化）
  
4. 業務改革の推進
  - 4.1 事業の選択と集中
  - 4.2 業務改善による効率化
  - 4.3 学生・教職員の安全確保体制の点検と強化
  - 4.4 情報セキュリティの点検と強化

## [参考] VISION150 第1期中期計画「コンパス 2017」について

学園の将来像を描いた長期ビジョン「VISION150」を踏まえ策定した第1期中期計画「コンパス 2017」は、今年度で4年目を迎えます。2014年度までに、先進工学部の設置やクォーター制の導入に向けた準備、新2号館および新4号館の建設計画の推進、附属中高における21世紀型教育の導入、職員人事制度改革の実現等、様々な施策を実行してきました。

この成果を踏まえ、また、少子高齢化や加速するグローバル化、IT化といった社会状況の変化を鑑み、

本学を「技術力と人間力を備え、実務に強く、将来リーダーになれる人材を育てる」学園とすべく、中期計画「コンパス 2017」後半の施策の具体化と再構成を行いました（下表）。ポイントは次の2点です。

(1) 目標を「教育」「研究」「社会貢献」「国際化」「学園運営」の5つの柱に再構成

(2) 昨今の学内外の環境を鑑みて目標を追加（下表★印の施策）

「コンパス 2017」の後半3年間で各施策を実現するため、また、さらなる学園の発展のため、よりよい教育・研究活動を展開し、質の高い志願者および入学生の継続的な獲得を目指します。

### ◆長期ビジョン・中期計画と事業計画の位置付け



### ◆再構成した第1期中期計画「コンパス 2017」

I. 教育	大学	1. 社会のニーズに応じた学部等の再編 2. 大学院の強化 3. 組織的・体系的教育の実施（教育改革） 4. 学生支援・キャリア支援・就職支援の充実 5. 教育システムのグローバル化
	大学・中高連携	1. 中高大院一貫教育体制の構築
	附属中高	1. 「21世紀型教育」の実現（教育改革）★ 2. 教員の教育力向上 3. 生徒の学力向上と学習環境の整備
	学園全体	1. よりよい学習環境に向けた施設・設備の整備（八王子キャンパスの価値・魅力の向上）★ 2. IRと連動した情報公表体制の確立★
II. 研究	大学	1. 先鋭的な研究体制の確立★
III. 社会貢献	学園全体	1. 社会貢献事業の継続的展開★
IV. 国際化	大学	1. 学生の国際化の推進
	附属中高	1. 国際交流の推進
	学園全体	1. 中長期的な国際化の展開 2. 教職員の国際化の推進
V. 学園運営	学園全体	1. 教職員の人事政策の確立 2. 財務体質の強化★ 3. 学園運営の基本的見直し（ガバナンス強化等） 4. 選択と集中による業務改革★

※ ★は新たに追加した項目



工学院大学



工学院大学附属中学校・高等学校

2015 年 4 月発行

2015 年度(平成 27 年度)事業計画

学校法人 工学院大学